

# 次代の農業を担う

～栃木県農業大学校生のチャレンジ～ ⑱

## 「『楽農』を軸にさまざまな挑戦を」

私の家は那須塩原市で水稻を中心に栽培している専業農家です。6品種の水稻を14ha、二条大麦を5ha、大豆を1ha栽培しています。父、母、祖父母の四人のほか、農繁期は知り合いや親戚に声をかけ手を借りながらの栽培です。私は二人姉妹の長女として生まれ、ほぼ毎日耕地を管理する家族の姿を見て育ちました。

驚きました。直接販売の魅力について知り、私も挑戦したいと思うようになりました。また農業の知識や経験を広げるため、東京で行われたミライの農業をつくるインターン研修にも参加をしました。世界や日本の農業を引っ張るトップランナーの方々の貴重なお話や、消費者側に立った市場調査、何より全国から集まった農業に熱い夢



そのため、農業高校卒業後はより専門性の高い知識や技術を実践的に学ぶことができる栃木県農業大学校に進学することを決めました。進学後は、先進的経営体実習という農家研修で多くの刺激を受け農業に対する考えが広がりました。特に、研修先の農家さんの有機栽培の技術や、地域と連携した食育活動、農作物を活かした加工品の直接販売は、JA出荷中心の私の家とは対照的な経営に



(農業経営学科 竹村真琴)

を持った同士と知り合えることができたことは、私のこれからの人生の支えになるような出会いであったと感じています。農業のつらさを知っているからこそ、自分にあつた農業の形は楽しく、負担の少ない楽な農業形態、つまり新しい形「楽農」を目指していきたいと思えます。家族みんなで和気あいあいとしたゆとりをもった経営を行うことが、今後の自分のかなえたい農業経営です。



## 「調和のとれた梨づくりと経営を目指す」

私の家は、大田原市で梨を栽培する専業農家です。私は、中学、高校と歳を重ねるごとに収穫作業や選果作業を手伝うようになって農業に興味を持つようになりました。我が家では、梨の収穫最盛期になると早朝から暗くなるまで収穫作業をし、そこから選果作業、直売所や宅急便で発送する梨を箱に詰めたり、遅くまで作業に追われたりしていました。そんな大変な作業でも私たちがのために働いている両親の姿に憧れ、そ

るきっかけとなりました。そこから、農業についてよく考え調べるようになり、果樹栽培においてまだ無農薬栽培が確立されていないという点でなにかできないかとの思いから、より農業を実践的に学べる栃木県農業大学校に入学しました。

栃木県農業大学校では、園芸経営学科果樹専攻に入学し、卒業論文の研究では、豊水について玄米アミノ酸微生物農法が生育や果実品質、病害虫発生に及ぼす影響とい

の背中を目指すようになりました。

将来、立派な梨の農業経営者になるため、高校は農業高校に入学しました。3年生では果樹を専攻して深く学び、果樹以外にも農業の多面的機能や有機農業などを学ぶことで、私の中の農業の考え方が大きく変わ

うテーマで研究を始めました。玄米アミノ酸を定期的に葉面散布し、黒星病や害虫の発生状況、また葉や果実の違いなどを調べるために日々データを記録しています。

梨栽培において、無農薬栽培というものはなかなか厳しいということは理解しています。しかし、それがこの研究で病害虫が減り、果実に良い影響がたら農薬は徐々にゼロに近づけて行けるのではないかと考えます。少しでも環境に優しく、調和の取れた果樹栽培、経営を目指して地域に貢献できるような農業経営者になります。

(果樹専攻 深澤嘉直)

